

# 5章 計画実現に向けて

## 5-1 推進体制

みどりの将来像「子どもたちが大人になっても暮らしたいと思える「湧き水」と「みどり」 のまち」を実現するためには、市民、市民団体、企業、教育機関、行政がそれぞれの役割を認 識し、協働して取組を推進することが必要です。

### 市民

- 愛着を持ちみどりを利用
- 家庭や地域における緑化推進
- みどりのイベントや講座への参加
- みどりのパートナーとしての活動 等

## 市民団体

- みどりの保全・創出・維持管理
- みどりの存在・利用価値の向上
- みどりに触れる機会の提供
- みどりに関する調査・情報発信 等

子どもたちが大人になっても 暮らしたいと思える 「湧き水」と「みどり」のまちの実現



#### 協働・連携

#### 行政

- 本計画の推進・進捗管理
- みどりの保全・創出・維持管理
- みどりのイベントや講座の実施
- みどりに関する調査・情報発信
- みどりの連携の輪づくり
- 国や県との連携 等

#### 企業

- 事業所内の緑化推進
- みどりの保全・創出活動への参加・協力
- みどりのイベントへの参加・協力 等

教育機関

- 各施設内の緑化推進
- みどりの保全・創出活動への参加・協力
- みどりのイベントへの参加・協力
- みどりに関する調査・研究 等

計画の推進体制

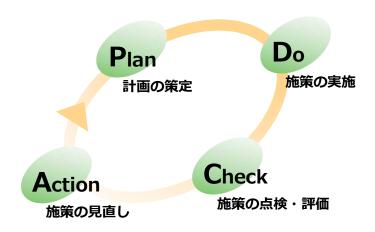


## 5-2 進捗管理

本計画を推進するため、計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)からなる「PDCA サイクル」に基づき、進捗管理を実施します。

施策の進捗管理にあたっては、毎年度施策の進捗状況の確認を行い、市ホームページ等を通じて広く市民に公表します。

また、みどりの専門家、関係団体、市民などから組織される「(仮称)和光市みどりの委員会」を新たに設置し、概ね5年に I 度、施策の進捗状況やみどりの現状を把握し、様々な視点で検証や評価を行います。さらに、計画の中間年となる令和 I 3 年(203 I 年)には中間見直しを行います。



PDCA サイクルによる進捗管理

年度 管理	R3年 (2021)	R4年 (2022)	R5年 (2023)	<b>R6年</b> (2024)	<b>R7年</b> (2025)	<b>R8年</b> (2026)	<b>R9年</b> (2027)	R10年 (2028)	<b>R11年</b> (2029)	<b>R12年</b> (2030)	<b>R13年</b> (2031)
施策の進捗状況の 確認・公表	計画		•	•	•	•	•	•	•	•	中間見
施策の検証・評価	策定					•					直し

	R14年			R17年						
	(2032)	(2033)	(2034)	(2035)	(2036)	(2037)	(2038)	(2039)	(2040)	(2041)
施策の進捗状況の 確認・公表	•	•	•	•	•	•	•	•	•	新計
施策の検証・評価					•					画 策 定

施策の進捗管理と計画期間のスケジュール





上谷津ふれあいの森